⑯宮古盛岡横断道路 一般国道106号 宮古西道路

授賞機関　岩手県 沿岸広域振興局 土木部 宮古土木センター

キーワード　CM業務、施工合理化、全横置長支間グレーティング床版

全建賞審査委員会の評価ポイント

宮古盛岡横断道路の一部を構成する宮古西道路の整備事業。事業監理のCM業務を導入し、効率的かつ早期に供用した点や、宮古西大橋では、現場の施工合理化のため全横置長支間グレーティング床板を採用し、また、今後の管理のため下フランジ張り出しをなくすなどの工夫をした点が評価された。

1. はじめに

岩手県宮古市と県庁所在地の盛岡市を結ぶ宮古盛岡横断道路（一般国道106号）は重要な幹線道路で、「岩手県地域防災計画」において「緊急輸送道路」に指定されており、東日本大震災では、避難路や物資の輸送路としての役割を担い「岩手県東日本大震災津波復興計画」において「復興道路」に位置付けられている。

その内、宮古西道路は平成15年度に岩手県施工区間（宮古中央IC～宮古根市IC、L＝3.3km）が事業化になり、平成31年３月30日に開通した。

また、震災後に直轄権限代行事業により事業化になった国土交通省施工区間（宮古港IC～宮古中央IC、L＝4.0km）においても令和２年７月12日に開通したところである。

宮古中央IC ～宮古根市IC（３月30日）の様子

2. 事業の概要

宮古盛岡横断道路宮古西道路は、宮古市内の交通混雑の緩和や冠水箇所の回避、そして東日本大震災の復興を加速するため、一日も早い開通が強く求められていたことから、早期開通に向け事業の推進を図ってきた。

事業の推進にあたっては、CM業務を導入し、様々な工事調整や関係機関との協議を円滑に進めたほか、二級河川閉伊川を横断する宮古西大橋（鋼７径間連続細幅箱桁橋（Ｉ型格子床版）、L＝439.5m）では、施工合理化を進めながら将来の維持管理に配慮した橋桁形状にした。

宮古西大橋

3. 事業の成果

工事期間中は、労働者不足や資材不足など多くの課題が有ったことから早期開通に向けた施工の合理化が求められた。そこで、宮古西大橋では全横置長支間グレーティング床版を採用し、床板コンクリート用の足場を無くしたほか、床板鉄筋の加工、組立て作業を劇的に減少させるなど大きな工期短縮が図られた。また、箱桁の下フランジ上面は、腐食しやすい環境で耐久性にも大きく影響することから下フランジの張出し長をゼロにした。これにより、橋梁の長寿命化が期待される。

4. おわりに

現在、宮古盛岡横断道路と三陸沿岸道路では、国土交通省において、かつてないスピードで整備が進められている。全線開通すると、物流の効率性が大きく向上すると共に三陸ジオパークを有する岩手の周遊型観光の活性化や、災害時における確実な緊急輸送が確保されるなど多くのストック効果が期待され、三陸沿岸地域の復興を力強く後押しすることが期待される。

賛助会員　三井住友建設㈱、㈱本間組、㈱中村建設、村本建設㈱、セントラルコンサルタント㈱、大日本コンサルタント㈱、㈱千代田コンサルタント、パシフィックコンサルタンツ㈱、㈱福山コンサルタント、㈱復建技術コンサルタント